

水辺空間利用者の注目要素に関する研究 —東京都杉並区善福寺公園を対象として—

5218D051-6 吉田 優子*

水辺空間に関する議論は、河川や公園など様々な場を対象として、周辺住民からの評価や活動内容、整備状況、癒しやストレス改善の効果などの観点から多くなされてきた。しかし、そのほとんどが水辺を大まかな風景として扱っており、実際に人々が何を見て癒されているかを扱った研究はない。本研究では、地域住民の主導によって新たな水辺空間が整備され、日々の利用者も多く、多様な水景がみられる善福寺公園に着目し、身近な水辺として本公園を利用する人々が、空間のどのような要素に興味・関心等を持っているかについてヒアリング調査を行い、KJ法と共起ネットワーク図を用いて分析した。その結果、3主体によって、注視する風景要素が異なり、利用者は自然要素、初来訪者は近い距離にある珍しい風景要素、活動団体メンバーは自身に関わる風景要素を注視するものの、想起内容は上の池では「想像」、下の池では「感想」となることは共通することが明らかになった。

Key words: 水辺空間, 善福寺公園, 視対象, 想起, ヒアリング調査

1. 研究の目的と背景

かつて東京は水の都と呼ばれるほど水辺にあふれた都市であった。しかし、戦後の都市化によって埋め立てや暗渠化され、水辺は減少したり。しかし、1965(昭和40)年以降、オープンスペースを確保するための水辺や親水性のある水辺に対する関心が高まり、さらには1997(平成9)年の河川法改正により自然再生を目的とした整備も行われるようになった²⁾。

東京都の長期ビジョンにおいても都市戦略の一つとして水と緑のネットワークの創出を掲げている³⁾。また、国土交通省によると、水と緑のネットワーク事業におけるこうした動きは河川のみにとどまらず、水辺を生かした公園整備も含まれている⁴⁾。そのため、環境教育の場や、人々に癒しを与える場としての水辺が創出されるようになってきた。実際に、近年行われた公園の整備において水辺空間を創出する例は多くある。例えば、芝浦水再生センター上に作られた品川シーズンテラス⁵⁾があげられる。これは、広大な緑地に流水設備や湿性花園などの水辺空間を加え、人に対する親水を目的としただけでなく、武蔵野台地への生態系ネットワークの結節点としての役割を担っている。

しかし、創出された水辺空間も整備費用等の観点から水が止められていたり、安全性の観点から自由に接触できないようになっている場所も少なくない。少子高齢化社会が進み公園の整備費用が減少する中、人々に利用される水辺について考える必要があるが、既存研究において風景要素に着目して考察したものはない。

以上のような背景から、本研究では既存の公園で人々の日常的な利用が頻繁になされる所の魅力となる風景

要素について考察する。特に、人々は水辺における休憩や活動中に、何を見たり感じたりしているのかをヒアリングにて調査する。そのため、活発な周辺住民の利用があり、公園内に二つの池を持つ、東京都杉並区の善福寺公園を対象とした。そして、日常の利用者と利用したことのない来訪者、深く関わりを持つ活動団体参加者の3者の視点から比較し、本公園で見られる風景要素の主体による違いを明らかにすることを目的とする。これにより、様々な主体にとって魅力となる風景要素を探り、今後の水辺整備において取り入れる風景要素についての示唆を得ることを期待する。

2. 研究の概要

2.1 既存研究の整理

1) 水辺に関する研究

a) 水辺に対する認識・評価に関する研究

石川らの研究⁶⁾においては、水景施設を有する複数の団地を対象に利用実態と、管理実態を設計者と管理者へのヒアリング、団地住民へのアンケート調査を行い、水辺に関する評価について検討している。その結果、約60%の住民が、「安らぎ」「快適さ」「豊かさ」「子供の遊び場」としての水景施設を必要としており、利用のしやすさが評価要因となっていたとした。

渡邊らの研究⁷⁾では、オープンスペースと水辺空間に関する住民の評価と物理条件、居住環境の関連性を把握し、居住環境における水辺空間の意義を東京都内16区においてアンケート調査を行っている。オープンスペースと居住環境評価は比例関係にあるが、水辺空間は面積だけでなく整備状況が関係していると指摘している。

b) 水辺を中心とした活動に関する研究

上山らの研究⁸⁾では、小松川親水公園が周辺住民のコミュニティ形成に与える影響と利用状況についてアンケート調査を行った。その結果、別々の団体が主催していたお祭りや金魚つかみ大会、清掃活動などの活動が公園整備により同じ場所を共有することになり、横のつながりを形成することになり、それまでのコミュニティに影響を与えていることを明らかにしている。

c) 水辺の心理学的影響に関する研究

塩田らの研究⁹⁾では、唾液アミラーゼ活性の計測機器を用いて心理ストレス計測し、同時に、水辺における音環境・熱環境の計測を行った。その結果、熱環境は夏季のみ効果があり、音環境は音の減衰・吸音効果を持ち心地よさを与えストレス軽減が起きていることを明らかにしている。

d) 水質の視覚的影響に関する研究

島谷らの研究¹⁰⁾では、河川の「水の透明感」と「きれいさ」についてSD法を用いて、視覚的に異なる22河川の比較を行った。また、それぞれの河川において、水を採取し、BODやクロロフィルなど10項目の水質分析を行っている。その結果、水質と人の感覚は一致しておらず、人にとっての「水のきれいさ」は透明感が関与し、それらは植物プランクトンの量に影響されやすいことを明らかにしている。

文野らの研究¹¹⁾では、鶴見川の親水性に関して水質やにおい、景観、親水行動に関して評価し、においと水質が親水行動に影響するとした。しかし夏と冬でのにおいの度合いが異なり、また、水はきれいでも磯臭い地点は少々好まれない傾向から、においの好感度に対する影響を示唆した。

2) 景観認識における主体の違いを述べた既存研究

本研究では、善福寺公園の風景を利用者と初来訪者、活動団体の3者の視点から比較するため、主体の違いによる風景の見え方の違いを述べた研究を挙げる。

安藤らの研究¹²⁾では、城下町の都市造形として典型的とされる日本の盛岡と、ヨーロッパ都市の理念型と言われるドイツのダルムシュタットの2都市を対象とし、景観特性を比較し日本の都市の個性について述べている。盛岡市民には盛岡の、ダルムシュタット市民にはダルムシュタットの都市のイメージ写真から景観パターンと評価を分析し、景観の捉え方の違いについて明らかにしている。

3) 対象地に関する既存研究

善福寺公園を対象地としている既存研究は以下のようなものがある。

竹内らの研究¹³⁾では、東京における水と緑を活かした公園緑地・地域性施策の在り方を考察し、水源地や湧水地の計画性や継承に特性を見出した。

中島らの研究¹⁴⁾では、善福寺周辺の風致活動の変遷と特質を明らかにしている。戦前は保全や運営基盤の確保など計画的なものが多いが、戦後からは風致より公園としての地域内交流活動に意義を見出し比重が移行したとしている。

平間の研究¹⁵⁾では、「渋谷川ルネッサンス」と「善福寺川を里川にカエルの会」の2つの団体に対し活動の経緯や内容についてヒアリング調査を行った。そして、それぞれの活動はその対象河川や周辺環境が影響しており、活動を通して個人も成長するという共通点を見出した。

藤本の研究¹⁶⁾では、市民活動への継続的な参加を促すために、周辺住民の事業や活動に対する認識を把握することが必要だとし、アンケート調査を行った。相関分析と数量化Ⅱ類を用いて、「活動の認識」には「河川の知識」や「事業の知識」が影響していることを明らかにした。

中村の研究¹⁷⁾では、都市河川における「川離れ」を解決する方法として、河川教育を行う上での環境問題の「気づき」に着目し、「気づき」の効果が観察された井荻小学校にヒアリングを行っている。そして、「気づき」の形成には、河川の違いを考慮しなければならないとの注意を述べたうえで「非常に近い他者」「河川へのアクセス性」「よそ者」の3つの条件が存在するということが明らかにした。

滝澤らの研究¹⁸⁾では、善福寺公園で行われた河川再生事業「みんなの夢水路事業」における地域主体の市民組織の活動内容をまとめ、公民連携事業の計画プロセスにおけるのあり方を明らかにしている。

以上のように、これまでに善福寺公園周辺の計画や現在の活動団体、住民の活動への認識、また水質に関する研究など少数だが善福寺公園を対象として研究がなされていた。

2.2 研究の位置づけ

既存研究においては、漠然と水辺空間を捉えるものが多い。また、水辺空間の比較も全く別の場所にあるものの比較をアンケート調査等を実施することで明らかにしている。本研究は、人々は水辺空間においてその空間の広さや植生、生物など、実際にはその風景の何を見ているのか、何を求めているのかを考察し、さらに風景要素の比較を一つの公園内で行うという点において新規性があると考えられる。

2.3 研究の流れ

- 1) 現地にて、実際の利用者に対してヒアリング調査を行い、その視対象や想起内容を把握する。
- 2) 本公園を利用したことのない来訪者にとっても見え方は同じであるか、同様のヒアリングを実施し、その視対象や想起内容を把握する。
- 3) 善福寺池から流れる善福寺川にて活動を行っている活動団体「善福寺川を里川にカエルの会」(以下善福蛙)

メンバーにヒアリングを行う。

- 4)以上の水辺の利用者、初来訪者、現地の水辺に深く関わっている活動団体のメンバーの3者に対するヒアリング結果をKJ法と共起ネットワーク図を用いて、それぞれの水辺空間の見方の違いを風景要素と想起内容から明らかにする。

2.4 調査方法

本研究では主にヒアリング調査を行い分析する。公園で休息をとっている利用者と利用したことのない訪問者、善福蛙のメンバーの3者に対して、ヒアリング調査を行う。利用者に対し行うヒアリング内容は、善福寺公園に行く頻度、公園までの所要時間、居住歴、休んでいる時に何を見て、何を想起しているのかである。初来訪者に対しては、周辺住民ではなく本公園を利用したことのない者を本公園に足を運んでもらい、数分間ベンチで風景を眺めてもらったのちにヒアリングを行った。同様に善福蛙メンバーに対しても現地において、自身の居住地、居住地周辺の環境、視対象、想起についてヒアリングを行う。

3. 研究対象地

3.1 対象地概要

既存研究においては異なる場所にある、異なる風景を持つ水辺空間を対象として、水辺を比較検討することが多い。しかしそれでは、アンケートを取る対象がその土地によって異なるため比較しづらいと考える。より比較する上で差異をなくすために、一つの公園に異なる水辺の風景が存在する善福寺公園を本研究では対象とした。

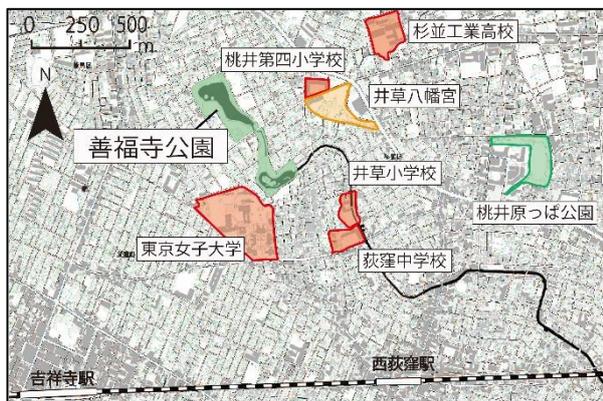


図1. 善福寺公園の位置¹⁹⁾

本研究の対象地は、東京都杉並区を流れる善福寺川の上流部において、川の水源地となっている善福寺池を持つ善福寺公園を対象とする。図1に善福寺公園の位置を示す。周辺は主に住宅地であり、小学校から大学、神社等

が点在している。また駅から徒歩20分と少々離れているため、井の頭公園のような観光地化は進んでいない、地域の公園である。

本公園は、1930(昭和5)年に風致地区として指定されており、公園内の善福寺池は井の頭池や石神井池とを含む武蔵野三大湧水池の一つで、この池周辺の自然を保全するために整備され都立公園として開園した。公園内の池は3つにゾーニングされ、オープンスペースとボート乗りが可能な上の池、ヨシが群生し鯉などの生物を柵を隔てずに見ることができる下の池、2018(平成30)年に完成した水に入ることができる水路(通称:みんなの夢水路)がある(図2)。

また、夢水路の整備は、近隣の小学校(杉並区立井荻小学校)や活動団体の善福蛙、周辺住民の協議により基本計画が作成された市民参加型事業(みんなの夢水路事業)によって進められた。完成後は子供の遊び場としてはもちろん、善福蛙や地元の環境団体「遅野井川かつばの会」などによる活動の場にもなっている。

他にも杉並区が主催する「水鳥の棲む水辺」創生事業によるシンポジウムや、善福寺川を対象として活動する市民団体が参加する善福寺フォーラムなども行われており、注目された場と言える。



図2. 善福寺公園園内図²⁰⁾



図3. 善福寺池(左から上の池、夢水路、下の池)

3.2 対象地に関わる主な活動団体

本研究の対象地に関わる主な活動団体として、善福寺川を里川にカエル会(通称:善福蛙)があげられる。本会は、東京の河川の自然再生をすることで日本全体を元気にしようという目的の下、2012(平成24)年より活動を行っている、杉並区の環境団体の一つである²¹⁾。遅野井川親水施設と名付けられた水路の整備事業である『みんなの夢水路事業』にも携わった。現在は善福寺川の雨天時

の下水流入問題解決に向け勉強会や散策会を実施し、周辺住民への活動の周知・協力を求める活動為にWSなどの開催も行っている。現在メンバーは、杉並区民だけでなく、大学教授をはじめ中学校教諭、小学校支援本部メンバー、東京都職員、郷土史研究家等多岐にわたり活発な意見交換や活動が行われている。

善福蛙以外にも、遅野井川の維持管理を行う遅野井川かっぱの会(通称:かっぱの会)や、区内在住・在学の親子を対象にネイチャーゲームを行う、すぎなみシェアリングネイチャーの会等、本公園において様々な団体が活動している。

本研究においてヒアリング対象となった、善福蛙メンバーは、これらの会にも所属している。

4. 利用者に対するヒアリング調査

4.1 調査の概要

2019(令和元)年7月~9月の3か月にわたり、善福寺公園にて利用者に対しヒアリング調査を実施した。このヒアリングの内容としては、利用者の年齢や来園頻度、公園までの所要時間、居住歴、来園目的、注視対象物、風景を見ながら想起していた内容についてである。このヒアリング調査によって、利用者の注視対象の特徴を明らかにする。そのために、まず、単純集計を行い属性やインタビュー地点における風景要素ごとの発言数を整理し、傾向を把握した。次に、KJ法や共起ネットワーク図を作成することで、視対象への想起内容を明確にし、また、発言された言語のそれぞれの繋がりを可視化して、回答者の発言について分析対象を絞って分析を行った。

4.2 利用者の属性の分析

本調査は、図4に示す9地点にあるベンチに座っている人に対し行った。風景の差異を少なくするために実施日は晴れた日を選定した。それぞれの地点には2~4基のベンチが設置してあり、それらをまとめて9地点とし、発言された風景要素の数をカウントし、考察する。

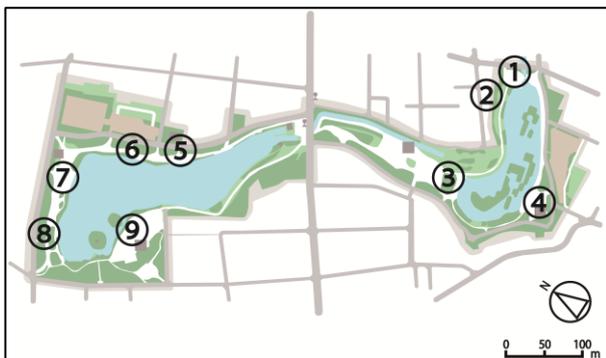


図4. 公園内のベンチ位置図

その結果、合計62名の利用者から回答を得ることができ、属性は以下(表1)のようになっている。女性は全世代の利用が見られたが、男性は、20代をはじめ生産年齢層の利用が少なかった。

表1. 回答者の属性

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性(人)	0	2	3	7	8	4	7	1	32
女性(人)	5	5	4	5	3	4	3	1	30

表2. ヒアリング調査回答例

性別	年代	場所(No.)	来園頻度	所要時間	居住歴	目的	視対象と想起
女	30	上の池(8)	週2	5分(自転車)	1.5年	散歩	全体かな。この公園の個々の景色がロンドンワタシーパークっていうところについてね。そっちの方がもっと大きいんだけど。その時のことよく思い出すよ。去年まであっちに数年行ってたから。この道行ったらおしいいパーがあるから行こうって思うんだけど。現実は日本だからなくて。この公園は思わぬ感じがからい。何でだろう。広い天気いいし。あと子供の声がするのなんか元気出るかな。
男	60	下の池(4)	毎日	10分	14年(実家)	散歩のため	毎日17000歩歩くここには通ってる。そのおかげで朝の体操をやっている人たちを見てそこにいられてもらってるよ。ここは人が少なくて落ち着くよね。水と緑とあって、こじんまりしてて。僕は専業主婦が多くて47都道府県全部行ったんだけど、日本って原野や火山湖温泉があったり。かと思えば沖縄みたいなきれいな海があったりいいよね。こんなにいろんな景色が狭い所にそろってる園ってあんまりないんじゃないかな。日本が僕はすごく好きなんだ。一出てくるたんごからするに水が好きなんですね。あと多様な風景変化や多様性を見てるんだろうね。あと自分の歴史を振り返って。水辺も好きなんだろし。

今回のヒアリング調査では来園頻度にばらつきが見られた(図5左)。また、公園までの所要時間を尋ねたところ、ほとんどの人が5分以上(自転車走行含む)の時間を要していることが分かり、5分圏内の近隣の住民の利用者は少なかった。一方で1時間以上かけて来園する利用もあり、理由として「仕事の関係で近くまで来たついでに寄る」という他の行動の付随的なものもあったが、ほとんどが「この池もしくは公園を見に来た」など、公園そのものの持つ風景を求めて遠方から来る利用者も見られた(図5右)。

また、利用者のうち、ベンチに座って休息をとっている人のほとんどが、スマートフォンや本などの手元にあるものを見ているのではなく、何かしらの景色を見ており、公園内の風景の有意性が伺えた。

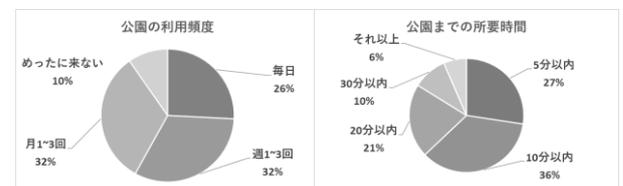


図5. 公園利用者の来園頻度と公園までの所要時間

4.3 利用者の視対象の分析

ヒアリング調査で得られた回答の中から、発言された風景要素を植物(ヨシや水蓮、木等)や鳥、水辺(水面、鯉)、風景全体などの要素ごとに、最初に発言された数とその後発言された総合的な発言数をカウントし、図6には植物、図7には水辺、図8には鳥、図9には全体を地図にプロットした。また、その他に多く挙げられた空と、音声に関する発言をカウントしたものを図10に示す。

1) 最初の発言数に関する結果

その結果、最初の発言数に違いが見られたのは、植物と全体についてであった。最初の発言では上の池における植物との回答はほぼなく、下の池に大きく偏った。全体に関する発言は、地点⑦に集中した。また、最初の発言と総数を比較すると、少しの差はあるが、ほぼ同様に発言された数が増えていった。総数を比較すると、鳥について最初に発言する人が多く、至る所で見られることから多くの生物の住処であると言える。また、地点①・⑤・⑥・⑦において最初の発言から発言数が増えている。これは、地点①では、ヨシや水蓮がメインとなって見え鳥が見つかりにくく、地点⑤・⑥・⑦では池にある程度の奥行きがあり、鳥が見えにくかったためであると考えられる。

2) 全ての発言数に関する結果

最初の発言以降述べられた全ての要素の発言数(総数)の集計結果を述べる。「植物」は、「木」という発言が多くなされていた。そのほとんどが池の周りにある遠いところのものを指すが、地点①においては、「木」よりも「水蓮」と発言した人が多く、手前に引き付けられる風景要素があるとわかった。「鳥」については、各箇所ではほぼ同数の発言がなされたが、「植物」は下の池で、「全体」に関する発言は上の池で多く発言され、偏りが見られた。

また、こちらからは視覚的なことについて質問を行ったが、「静けさ」や「川のせせらぎ」、「鳥の鳴き声」等の周囲の音声に関する発言が、利用者から多く自主的に行われた。そのため、こちらに関しても個別にカウントした(図 10 左)。その結果、下の池においてより多くの発言がされた内容としては「静けさ」や「鳥の声」「川のせせらぎ」などの発言が聞き取れた。上の池では「静けさ」という発言があった一方で、下の池では見られなかった「遊んでいる子供の声」という発言が聞き取れた。

他に、「空」という要素についても発言が少数ではあるが見られたので集計し図 10 右に示す。地点⑤・⑥における空についての発言は、「夕焼け」という一定の時間を指しており、その他の地点では、全体の風景の一部で目に入ったと言うような扱いでの発言となっていた。

以上のことから、下の池は手前にある植物や水面、静かな場所が特徴となっており、一方上の池は池を利用したオープンスペースの解放感を持つ場所と考えられる。

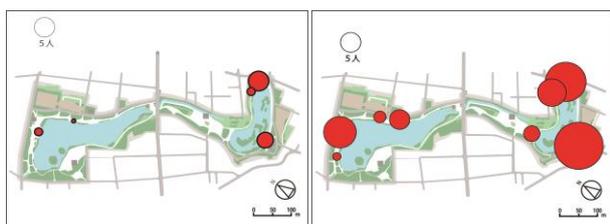


図 6. 利用者の発言数(植物(左:最初、右:総数))

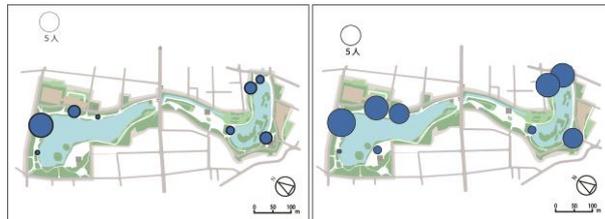


図 7. 利用者の発言数(水辺(左:最初、右:総数))

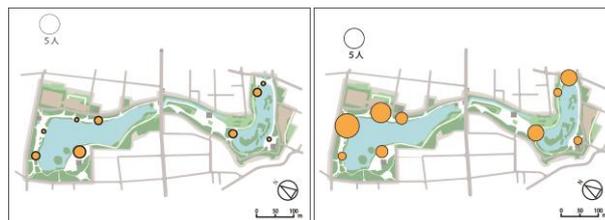


図 8. 利用者の発言数(鳥(左:最初、右:総数))

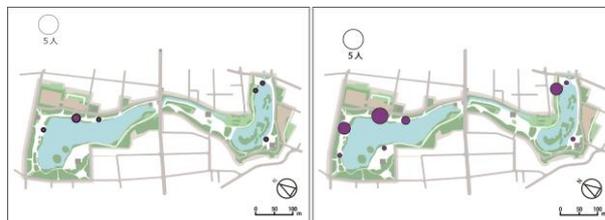


図 9. 利用者の発言数(全体(左:最初、右:総数))

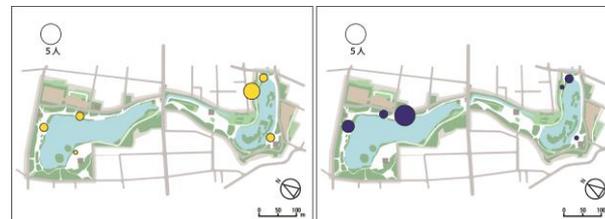


図 10. 利用者の発言数(左:音、右:空)

4.4 利用者の想起内容の分析

1) KJ 法を用いた分析

利用者の風景要素ごとに想起内容を KJ 法を用いてまとめた(図 11)。この時、風景要素は発言された要素の単純集計のものと同様に、「鳥」、「植物」、「水辺」、「全体」、その他に大別し、想起内容は「状態・知識」、「疑問」、「想像」、「感想」、「過去」の 5 つに分類し、想起内容をまとめた。

下の池では「植物」、上の池では「鳥」「水辺」と「全体」に関する「感想」が多く想起された。一方で、「状態・知識」に着目すると、「池」と「全体」に対する想起の量は大きくないが、「鳥」は上の池で「植物」は下の池で多くなされた。

また、「想像」について着目すると、上の池においては、「鳥」や「水辺」、「全体」に関しては「子育てがしやすい

4.5 小結

利用者へのヒアリング調査から、以下のことが分かった。上の池と下の池では発言数からは、視対象の興味として上の池と下の池で「植物」に対する差異が大きく、他はさほど差異がみられないが、想起内容の分析より、「鳥」と「水辺」「全体」において上の池の方がより想起される種類が多く、「感想」だけでなく自然に関する「想像」が多く、人々に注視されていることが分かった。

5. その他の主体に対するヒアリング調査

5.1 その他の主体に対するヒアリング調査の概要

本研究では、風景要素を異なる3者の視点からの比較を行う。そのため、今までに一度も本公園を訪れたことのない初来訪者と、本公園に深く関わる活動団体、善福蛙のメンバーにヒアリング調査を行った。

それぞれ個別に本公園に足を運んでもらい、数分間ベンチで風景を眺めてもらったのちにヒアリング調査を行った。

ヒアリングの内容としては、年齢、自身の居住地、居住地周辺の環境、視対象、視対象への想起内容についてである。また、眺めてもらう場所については、9ヶ所全ての地点で行うことは難しいと考え、利用者に対するヒアリングを行った地点の中で、多くの回答を得られ、かつ視対象が多く、全体的な風景の差異が大きいであろう2地点として図4中の地点①、⑦を選定した。また、この地点は公園内のビュースポットにも指定されている。

5.2 初来訪者に対するヒアリング調査結果と分析

1) 初来訪者の視対象の分析

初来訪者として協力が得られたヒアリング対象者は11名(男5名女6名、年齢23~25歳)である。利用者へのヒアリング調査の分析と同様に、最初に発言された風景要素とその後に発言された風景要素をカウントした。その結果、最初に発言された要素と最終的に発言された要素の数は、それぞれ表3のようになった。その他の要素として、利用者からも発言された「空」だけでなく、「人」や、「犬」、「木の杭」、「柵」、「虫」等、新たな要素が発言された。最初の発言と、最終発言数を比較すると、ほとんどがほぼ同じ数だけ発言されていたが、「植物」に限っては、下の池で「蓮」「木」「ヨシ」等多く発言がされ、上の池と差が生じた。

表3. 初来訪者の風景要素発言数

要素		鳥	水辺	植物	全体	その他
最初の発言	上の池	2	3	3	1	2
	下の池	1	2	7	1	0
総数	上の池	8	11	8	4	18
	下の池	9	12	20	3	15

2) 初来訪者の想起内容の分析

利用者へのヒアリング調査の分析と同様に、初来訪者のから得られた回答をKJ法(図13)と共起ネットワーク図(図14)を用いて想起内容の分析を行う。

a) KJ法を用いた分析

初来訪者であるため、基本的に「昔」に関する想起は少なく、数名程度、池のある場所に足を運んだ思い出や、「紅葉」等近日の記憶を想起した。

また、風景要素として、関心度は様々だが、「人」を視対象として認識している人が多かったため、「鳥」、「植物」、「水辺」、「全体」、「その他」とは別に大別した。すると、上の池では多く想起されているにも関わらず、下の池では想起が少なく、「走っている」や「餌をやっている」等その人の状態を示すだけであった。

その他の風景要素に想起内容においても、上の池では「他の人に相談されたことについて考える」や「ボートに乗っている老夫婦のようになりたい」等様々な「想像」がされているが、下の池では「想像」ではなく、「葉っぱが落ちてきた」というような風景要素の状態か、「水面の動きが面白い」などの簡単な感想が想起される場合がほとんどであった。また、「水蓮」や「ヨシ」に対しては、下の池に特化した風景要素ではあるが、初来訪者のほとんど人が日常生活の中でなかなか見ない光景であったためか、注目する人が多くなった。

さらに、上の池では「子供の声」、下の池では「鳥の声」といった、音声に対しても印象がある発言がされた。想起として「癒される」や「落ち着く」等の感想を述べており、音声についても反応が見られた。

b) 共起ネットワーク図を用いた分析

視対象について、「池」や「水」等のような単純な表現で発言がされたが、その想起内容は「全体像」や「光の反射」、「ボートでの遊びの体験」等多岐にわたっており、初来訪者は視対象に対しての表現は豊かではないが、想起内容は多く分岐しているとわかった。

次に、「目」や「視界」について着目すると、そのほとんどが、下の池でも上の池でも目の前にある近くの視対象に注目している傾向にあることが分かった。遠いところの要素はほとんどの人「全体」として視対象としてとらえるわけではなく、広さを実感したり、考え事をするためのバックグラウンドとして扱われていた。また、水の中等の細部を見るのではなく、水面等見てすぐわかるものに大雑把にとらえている。

以上のように、初来訪者に対するヒアリングでは、視対象として近くの要素を注視するが細かく見てはいないため、下の池のような植物が多くあるところでは奥に鳥が居てもなかなか認識されなかった。想起内容は様々だが、表現方法は少ないことが伺えた。また、視対象と想起の関係としては、下の池では多くが風景要素の状態や感想であったが上の池においては、風景要素の現状から未来を想像したり、自身の近日の悩みが想起されていた。

上の池					下の池				
状態	疑問	想像	感想	過去	状態	疑問	想像	感想	過去
いるな 飛んでった 集まっている こっちに固まっているな	全部のホールにとまってるのは鳥？ 溜ったのは餌をとるため？		癒される いいな		鳥	葉っぱをかき分けて泳いでる いる 飛んでる 鳴き声は聞いていた。		鳥がいっぱい居るのが珍しい 気持ちよさそう 頑張ってるな 鳥の声がして落ち着く	
走ってる(2) 居るな。 ボートに乗ってる、揺らしてる ボートがババの方に傾いてる (子供)ボール遊び (子供)葉っぱを投げ入れてた (子供)駆け回ってる	ボートに乗ってる人は何をしているのか あの学生はこの学生だろう ボートに乗ってる老夫婦が理想的 仕事を思い出して嫌だから見てる (子供)会話からごっこ遊びかな (子供)欲しい、将来の不安 何してるのかな		(子供)かわいい (子供)心が和らぐ、安心する (子供)ぼーっとできる (子供)声がうるさすぎずちょうどいい	昔ボートに乗ったな	人	写真を撮ってる人が居る 餌をやってる 走ってる 歩いてる ベンチに座ってる 声がする			
紅葉してる 沢山ある バックグラウンド		(緑)目によさそう 季節を感じる きれいな (紅葉)後輩と見に行つた (紅葉)枯れ葉を後輩が拾ってきた			植物	奥は木しかない (ヨシ)閉鎖的 (水蓮)何て植物かな (ヨシ)あれなんだらう (ヨシ)生い茂ってる。緑がきれいな。 (水蓮)モネの水蓮に似てる (水蓮)季節によって違う見え方なのかな		(水蓮)集まっているのが違和感 (水蓮)花がなくてさみしい (木)きれいだな (水蓮)緑だな (木)葉っぱが少なくて残念 (水蓮)見やすくていいな (水蓮)ちよっと汚い (水蓮)珍しい (木)紅葉が進んだ 不忍池を思い出した	
(水面)キラキラ (鯉)いるな (水面)変わっていく (鯉)目に入りやすい	(水面)しわが寄ってるから何かいるな (池)何であるだろう (水面)相談されたことについて考える (池)あの辺がバッテリーボックスかな	(水面)水質汚い (水面)紅葉した木が映ってきれいな (鯉)色が鮮やかでいいな (水面)葉っぱが浮いて季節を感じる			水辺	(鯉)背中が見えた、いた (水面)葉っぱが落ちてきた (水面)水が動いてる		(水面)揺れがモザイクみたい (水面)が面白い (水面)近くに感じる (水面)柵がなくて親近感がある (水面)反射してきれいな(光、木) (池)葉っぱが浮いて汚らしい (池)自然というより放置した結果？	
おだやか バランスがいい 無駄な情報が少ない 広い、解放感	誰かと来たいな 井の頭と同じくらいの広さ 絵を描きたくなる 諸行無常 読んだ本について実践しているか お昼食食べよう	一枚の絵を見るよう 自由 人が少ない、適度にいる 純粋にゆつたりできる公園 気持ちいい、こういう景色あったな 最近休む時間なかったな	近い出来事 自由 純粋にゆつたりできる公園 気持ちいい、こういう景色あったな 最近休む時間なかったな		全体	四季中でどんなサイクルなのか 疲れたな。何で疲れてるんだろ 緑がある 色んなものが見えてる 奥行きがない 狭い		整備されていない 活動的でない 心が休まる 井の頭と似ている 平和 写真撮りたい のんびりできそう 沈んでる気分の時に落ち着けそう 直近のことを考える 人生観 昼寝できそう 自分の暇みを考えてた	東京にこんなところがあったんだ 雨が降ったら情緒深そう 囲まれてる感じがいい 近所の人に来る公園 落ち着いている テートに向かない 動くものがないからつまらない 暗い さみしい 暖かい 風が吹いていい
(犬)いる (空)青い (空)晴れる (空)雲がない		(犬)かわいい (空)広い、解放感 (犬)アルファベットみたい (犬)青いのきれいな (犬)ここまでワンセットなんだな			他	滝の音がする (木の杭)何であるの 滝を写真撮りたい		(空)青い (空)広くていいな (空)開けて好き (空)雲がなくて天気がいい	

図 13. 初来訪者の想起内容

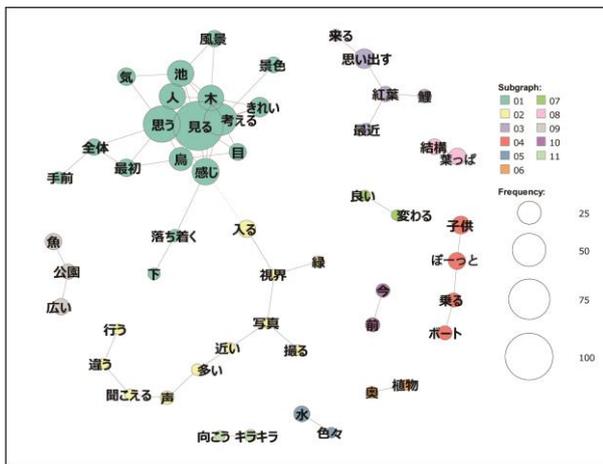


図 14. 初来訪者の発言に関する共起ネットワーク図

5.3 善福蛙メンバーに対するヒアリング調査結果と分析

善福蛙のメンバーに対するヒアリング調査は、会のイベントや会議に積極的に参加しており、別の活動団体にも所属して高い知識を持つであろう、2名に協力を得ることができた。こちらは、対象者が2人であるため、ヒアリング結果から直接内容について分析する。

一人目のメンバーは、下の池における視対象として

初めに「水面」と「鳥」が回答された。しかし、「水面」については、相称として扱っているだけで、「魚」や「水蓮」を見ているようであった。想起内容としては、「鳥」については、「かわいい」などの見たままの感想や「ちっちゃいののに何千キロも飛ぶからすごい」等の知識が語られた。一方で、「魚」や「水蓮」については、外来種である点や増殖している点など問題点を主に想起し、さらにそこから派生した将来像を想起していた。上の池も、「水面」や「鳥」、「木」を見ていたと回答した。しかし想起内容としては下の池で語られたような問題点については少なく、「昔のここの風景をみてみたい」や「池際が湿地なら違う鳥が来るんだろうな」など自由な想像がされた。

二人目のメンバーは下の池において、「鳥」「木」「空」「水蓮」等多く回答されたが、想起内容のほとんどは、風景に対する「きれいな」などの感想が多かった。一方上の池では、「鳥」「木」「空」「水面」が回答された。想起内容は、視対象に対する簡単な感想の他に、「あの木に子供が登っていた」や「あの鯉はあの人が放したやつかな」等過去の想起や、水質に関する問題、「鳥の鳴き声を聞いて会話しているのかな」等の自由な想像がされた。また、発言されたものは「鳥」等尾総称ではなく「カワウ」や

「キンクロハジロ」「オナガドリ」のように固有名称を述べ、専門知識の豊富さが伺えた。

以上のように、両者とも視対象については上の池と下の池に大きな違いはなかった。想起内容は、下の池では現在見えているものに対する感想や問題点が目立った一方で、上の池では過去や仮定などの想像がされた。また、上の池ではより「鳥の声」をピックアップする傾向にあった。

5. 考察

本研究では、3つの主体の視点からの風景の見方の違いについてヒアリング調査を行った。その結果以下のようことが分かった。

- ・利用者の視対象となる風景要素は基本的に自然風景、特に変化があるものに多く、想起内容は過去見た風景との比較などがされている場合が多かった。
- ・初来訪者は視対象として、普段の生活ではなかなか見ることの出来ない、「鳥」や、「植物」に注視しやすかった一方で、「人」や「柵」等自然ではない現実的なものに目が行くという特徴も見られた。また、手前にある要素に着目しやすいという特徴もあった。
- ・善福蛙メンバーは、上の池でも下の池でも、視対象となる風景要素には変化はなく、想起されることは、一見別の想起であっても動につながるものであった。
- ・どの主体においても、下の池ではその風景要素への「感想」が多いのに対し、上の池では「想像」が多くなされた。それぞれの「想像」する内容は、利用者は過去善福蛙メンバーは問題点や仮定、初来訪者は自身の悩み等という違いが見られた。

以上のように、主体ごとに視対象となる風景要素や想起内容は様々であった。

<参考文献>

- 1) 坪井壱太郎：東京特別区における水域変化と水辺環境の整備事業の展開、総合都市研究、第82号、pp.19-33、2003
- 2) 国土交通省河川局：河川環境整備・保全の取り組みの現状について、第一回河川環境の整備・保全に関する施策レビュー委員会資料、平成19年
- 3) 東京都政策企画局：東京都長期ビジョン第3章、平成27年
- 4) 国土交通省：水と緑のネットワーク(記者発表資料)、2007
- 5) 蕪木伸一、山下剛史、藤沢亜子、宇高道雄、一般社団法人 建築設備総合協会、第15回環境設備デザイン賞、第III部門 都市・ランドスケープデザイン部門 入賞作品PDF、2017
<http://abec.or.jp/designaward/past/15/docs/21.pdf>
(最終閲覧日：2019年7月11日)
- 6) 石川順子、大崎裕史、宮崎俊哉、紀谷文樹：各種水景施設の住民による利用傾向及び評価—住宅団地における水景施設に関する研究その1—、日本建築学会計画系論文報告集、第437号、pp.19-26、1992
- 7) 渡辺秀俊、畔柳昭雄、長久保貴志：都市内水辺空間と居住環境評価の関連性に関する研究—居住環境における水辺空間価値に関する研究—その2—、日本建築学会計画系論文集、第468号、pp.199-206、1995
- 8) 上山肇、若山治憲、北原理雄：親水公園の周辺環境に関する研究—親水公園が周囲のコミュニティ形成に与える影響—日本建築学会計画系論文集、第465号、pp.105-114、1994
- 9) 塩田彩夏、二瓶泰雄、遠藤亮之：河川・海岸におけるストレス軽減効果と音・熱環境の影響の検討、土木学会論文集B1、Vol.69、No.4、pp.699-1704、2013
- 10) 島谷幸宏、保持尚志、千田庸哉：浸水活動と河川の水質に関する研究、環境システム研究、Vol.20、pp.378-385、1992
- 11) 文野洋、落合正宏、市原茂：鶴見川上・中流域の水質と景観・親水行動との関連について、総合都市研究、第74号、pp.105-116、2001
- 12) 安藤昭、五十嵐日出夫、赤谷隆一：日本の都市の個性創出のための日独地方都市の都市景観の比較研究—盛岡とダルムシュタットを対象として—、土木学会論文集、No.431、IV-15、pp.67-76、1991
- 13) 竹内智子、石川幹子：神田川上流域における公園緑地施策の変遷に関する研究、都市計画論文集、42巻(3)、pp.7-12、2007
- 14) 中島直人、西村幸夫、北沢猛、鈴木伸治、遠藤新：善福寺風致協会の活動の変遷についての研究、日本都市計画学会学術研究論文集、第35回、pp.37-42、2000
- 15) 平間紗季：都市河川を対象に活動している市民団体の調査研究—「渋谷川ルネッサンス」と「善福寺川を里川にカエル会」を対象として—、2016年度早稲田大学卒業論文、2017
- 16) 藤本典大：地域における市民活動団体の認知に関する調査研究—東京都杉並区善福寺川を対象として—、2017年度早稲田大学卒業論文、2018
- 17) 中村晋一郎：都市における「川隣れ」解決に向けた「気づきの形成について—東京・善福寺川における河川教育の実践—、実践政策学、第4巻、1号、pp.11-20、2018
- 18) 滝澤恭平、中村晋一郎、島谷幸宏：善福寺公園内「みんなの夢水路」事業における市民組織と計画実現プロセスの研究、景観・デザイン研究講演集、NO.14、pp.218-228、2018
- 19) 国土地理院基盤地図情報(平成30年度版)より作成
- 20) 公益財団法人 東京都公園協会、「公園に行こう! 緑に包まれた二つの池 善福寺公園」より作成
(最終閲覧日：2020年1月6日)
<https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index010.html>
- 21) 善福寺川を里川にカエル会 HP (最終閲覧日：2020年1月6日)
<https://zempukukaeru.wixsite.com/zempukukaeru>
- 22) 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会 すぎなみシェアリングネイチャーの会(最終閲覧日：2020年1月6日)
https://www.naturegame.or.jp/about_us/group/tokyo/000923.html